

クラス	Q106	担当教員	瀬地山 葉矢
テーマ	臨床心理学的視点から親と子・家族を考える		
著書・論文 研究課題等	<p><著書></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「育児困難な母親」、「コラム 現場の実際 精神科クリニックから」『子どもの臨床心理アセスメント』 共著、金剛出版、2010 年 ・「心理臨床に生かすアタッチメント研究からの視点」『子どもの発達と情緒の障害—事例から見る児童精神医学の臨床』 共著、岩崎学術出版社、2009 年 ・「Ⅶ 妊産婦のメンタルヘルスと親子関係」『よくわかる子どもの精神保健』 共著、ミネルヴァ書房、2009 年 ・「子育て支援」『助産学講座第4巻 基礎助産学4 母子の心理・社会学』 共著、医学書院、2008 年 <p><論文></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「超低出生体重児、奇形児を出産した親の心理と対応」『総合病院精神医学』 第 19 巻第 2 号、2007 年 ・「両親の離婚を体験した女兒とのプレイセラピー」『精神分析研究』 第 51 巻第 1 号、2007 年 <p><研究課題> 親と子の関係性の発達、乳幼児とその家族への臨床心理学的介入</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：親子、家族、関係性の発達、子育て支援、臨床心理学			
<p>【内容】</p> <p>このゼミでは、臨床心理学的視点から親と子・家族について学びます。具体的には、①親や他者との関係性を基盤にした子どもの発達、②親および家族の発達、③親と子・家族が抱える問題や心理的課題、④子育て支援や①～③に対する臨床心理学的支援や介入、などがテーマとなります。原則として、4年生は全員、卒業論文作成をめざします。</p> <p>【2年間の大まかな予定】</p> <p><3年次></p> <ul style="list-style-type: none"> * 少人数のグループを組み、上記の①～④の中からテーマを1つ選んで、それについて心理学的方法を用いた研究を行う。この作業を通して、親子関係や家族に関する臨床心理学的な理解を深め、同時に、研究の方法、結果・考察のまとめ方など、研究を進めていく際に必要な手続きについて学ぶ。 * 後期からは、卒業論文作成に向けて、各自の研究課題（卒業論文のテーマ）を具体化していく。 <p><4年次></p> <ul style="list-style-type: none"> * 中間発表や何回かの草稿提出を経て、卒業論文を完成する。 <p>3・4年次は、他に、就職活動、各種試験、バイト、サークル、学生生活最後のお楽しみ等で忙しく過ごすことになるでしょう。その多忙なスケジュールを調整しながらいかに卒論を書き進めていくかもこの時期の課題になります。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>*ゼミの時間に発表やその他の活動を行うには、ゼミ以外の時間をその準備に充てたり、メンバー同士集まることが求められます。サブゼミをはじめとする一連のゼミ活動に時間と労力を割くことをいとわず、積極的に参加してください。</p>			